

北秋田 親子連れ、解体も見学 **生クロマグロ丼に舌鼓**



さばきたての生クロマグロを味わう教室が、北秋田市の市民ふれあいプラザ・コムコムで開かれた。親子連れ約150人が参加し、マグロ丼にして味わった。市子ども会育成連合会の主催。



連合会長で鷹巣漁業協同組合長の湊屋啓二さんが、大館市の業者から仕入れたメキシコ産の生クロマグロ約70キログラムを解体した。湊屋さんが専用の包丁を使って豪快にマグロを切り分ける様子を、参加者はガラス越し

に興味深そうに見入っていた。

来場者は配られた切り身を盛り付け、自分好みのマグロ丼を作った。ねぎま汁も振る舞われ、丼とともに堪能した。鷹巣小6年の相馬明莉さん(12)は「大トロがやわらかく、とろとろしていておいしかった。口の中で溶けるようだった」と話した。

内陸部の子どもに魚料理に親しんでもらい、漁業に興味を持ってもらおうと毎年行っている。今回は15日に開催。教室では、県水産振興センター内水面試験池(北秋田市)の職員によるマグロの生態を学ぶ講演も行われた。(石塚佳治)(令和6年12月22日(日)秋田魁新聞より一部抜粋)